

旬の味覚

すしや鍋に舌鼓

今年も盛況 どんぶり鍋 冬の陣

どっこい積丹「冬の陣」実行委員会（佐藤勝次実行委員長）が初冬の集客イベントとして取り組み今年で7年目となる「どっこい積丹冬の陣」が行われました。

第1弾「鮎と鍋」は、11月15日、町総合文化センターで開かれ、道内各地から観光バスで訪れた約920人は積丹の旬の味覚を堪能していました。

鮎職人と地元料理人が腕によりをかけて握ったアワビやイクラ、ブリなど旬のネタが入った一人前8カンセット2、300



食やホッケのすり身と生のりを使った積丹鍋、積丹沖で釣り上げたマグロの解体ショーと解体したばかりの新鮮なマグロの海鮮丼500杯も振る舞われました。

12月6日には、第2弾「積丹鍋の競演」が岬の湯しゃやこたんで開かれました。

地元でとれたブリやソイなど旬の魚を使った鍋を楽しんでもらうもので、町内の民宿や旅館のおかみさんたちが中心となつて、ソイ鍋2種類、ニシンの三平汁、ゴッコ汁、カレー風味のブリ鍋、みそキムチ味のタラ鍋、ホッケすり身の積丹鍋の7種類、直径80cmの大鍋で合わせて700食分を一杯1000円で販売しました。

午前11時の開始前には札幌方面からの観光バス6台でやってきた行楽客や開始時間に合わせ入浴を終えた客などが鍋の前にごんぶりを両手にずらり長蛇の列をつくりました。コクのあるみそ味や風味豊かな積丹生ノリ



を散らしたしょうゆ味、ピリツと辛いキムチ味の鍋に、アツアツの鍋から立ちのぼる香りが会場を包み込み、次々とおかわりする客が続出、開始わずか30分で売り切れる鍋もあり、用意した700食分もわずか1時間で完食となりました。

また、鍋の売上げ金80,000円は、歳末たすけあい運動義援金として12月17日、佐藤実行委員長から、北海道共同募金会積丹町分会の福井貞吉会長へ手渡され、同分会を通じ交通遺児や独居老人世帯などのために使われることとなります。

《税を考える週間》 11月11日～17日
あなたの税金は、安心して暮らせる
田代小百合さんです

《税に関する書道入選決まる》

11月11日～17日「税を考える週間」に合わせて、「税に関する書道」が開催され北後志5か町村より410人の応募がありました。本町からも33人が応募しました。

その結果、町内から9人が見事入選を果たし、優秀作品として11月11日から17日まで北海道用金庫本店ロビーにて展示され、北後志入選作品9点は、11月25日から28日まで美国郵便局に展示されました。

なお、北後志入選作品については次のとおりです。

- 【**税務署長賞**】
- 藤田 真菜さん（野塚小4年）
- 【**金賞**】
- 山本 菜摘さん（美国小3年）
- 【**銀賞**】
- 柏崎 未羽さん（日司小1年）
- 佐々木 亨くん（美国小6年）
- 【**銅賞**】
- 畑谷 圭治くん（美国小5年）
- 三国 恭兵くん（野塚小5年）
- 川崎 翼くん（美国中1年）

田代小百合さん（美国中1年）

大保 優真さん（美国中1年）

《納税意識の向上に役立てて》
余市地方法人会積丹地区青年部と町納税貯蓄組合連合会から12月4日に町内の小学校1年生21名に防犯ブザーと6年生27名に英和辞典などが寄贈されました。

これは、納税意識の向上を目的に両団体の活動の一環として行なっているもので、社会の仕組みや税金のことについても考えてもらいたいと寄贈したものです。

この日は播磨修一青年部長が各小学校をまわり1年生、6年生にそれぞれ手渡ししました。



積丹観光フォトコンテスト

グランプリ

小野嘉春さん(札幌市)
「それ行け神輿火を潜る」



第20回積丹観光フォトコンテスト(積丹観光協会主催、全日本写真連盟積丹支部主管、積丹町など後援)の審査が行なわれ、応募総数222点の中からグランプリの積丹町長賞に札幌市の小野嘉春さんの作品『それ行け、神輿火を潜る』が選ばれました。その他の入賞者は次のとおりです。

▼準グランプリ(3作品)

「漆黒の中の静寂」

佐藤 修さん(函館市)

「カムイ大漁祈岩」

松野 力さん(小樽市)

「装っ岬」

高橋 省三さん(小樽市)

▼優秀賞(10作品)

「風の強い日に」

紅露 雅之さん(小樽市)

「浜の子供」

佐藤 全慶さん(旭川市)

「神威岬の夏」「積丹半島の夏」

仁和 亮さん(札幌市)

「きりめく渚」

石岡 誠三さん(余市町)

「輝く神威岬海岸」

加藤 貴之さん(札幌市)

「燃える空」

高橋 省三さん(小樽市)

「風光る」

中村 和三さん(札幌市)

「幌武意海岸の夏」

佐々木伴次郎さん(札幌市)

「怒涛」

田村 敦美さん(赤平市)

「あなたの思い出に残る」

積丹の風景部門

▼グランプリ

「群舞」

東 久子さん(札幌市)



※入賞作品については、積丹観光協会のホームページでも公開しています。

人権作文コンテスト 美国中学校5名入賞

第28回全国中学生人権作文コンテスト札幌地方大会(札幌法務局、札幌人権擁護委員連合会、道主催)小樽地区大会で美国中学校の生徒5名が入賞し、12月9日に同校で町人権擁護委員の成田康正さんから表彰状が伝達されました。

などについてテーマを決め応募しました。入賞された5名は次のとおりです。

▼小樽協議会長賞(2名)

「『その人』との接し方」

佐々木ひかるさん

「つくってしまつた壁」

菊谷 静海さん

▼審査委員賞(1名)

「人の目」

山谷 香織さん

▼佳作(2名)

「過去の私の過ち」

小原みなみさん

「コミュニケーションの大切さ」

今井 杏美さん

人権作文は次代を担う中学生に日常の家庭生活や学校生活の中で得た体験など作文を通じて、人権尊重の大切さや基本的人権についての理解を深め、豊かな人権感覚を身につけてもらうこと目的としています。

同校では3年生の生徒17名全員が、いじめ、差別、人権



(後左から)坂下校長、成田人権擁護委員、芳村教諭
(前左から)小原さん、今井さん、山谷さん、佐々木さん、菊谷さん